

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほしざらとよた1・ほしざらとよた2			
○保護者評価実施期間	2025年12月15日			2026年1月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2025年12月15日			2025年12月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数)	13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月23日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用者の情報共有 ・利用者1人1人の個性を優先した支援を行っている。	・支援前、後にミーティングを実施。 共有ノートを作り、その日いない職員も情報が共有できるようになっている。 ・支援計画書に基づいて、児童の興味のある事や関心のあることを支援・活動に取り入れて行うよう心がけている。	・共有するだけでなく、どう支援していくかも共有し くかも具体的に検討し、具体的な内容を共有する。 ・職員間のミーティングなどを行い情報共有を密にしながら児童の特徴や特性に合わせた支援を行っていく。
2	・利用者の特性、現在おかれている環境や状況に合わせた活動の提供。 ・利用者が安心し楽しく居れる居場所となっている。	お金の使い方の勉強。 (買い物、外食、外出先で家族にお土産を買う) パソコンやスマホの使い方について。 (必要な子には使うことによっての危険性についても指導) ほしざらに到着してから、帰るまでの流れを視覚的にわかるようしている。自分自身で動けるよう工夫している。	個々に合わせた支援をすることで、あの子はやってもらえるけど、うちの子はやってもらえないと言ったことが生まれないよう、その子の状況に応じて取り組んでいるということを事前に伝え、理解していただく。 利用者1人1人の自立度が違うので、1人1人に合わせた支援や声掛けをしていく。
3	相談や申し入れごとに対して、その都度対応している。	子育て、発達に対する相談や利用に関する相談に対して面談や電話でのやりとりなど必要に応じて答えている。	相談しづらい保護者様もいらっしゃると思うので、送迎時などにこどらから働きかけ、なるべくタイムリーに対応できる様にしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者交流、きょうだいどうしの交流機会が少ない。 ・利用者が増えてくると、送迎面・支援面などで職員の人員が不足の可能性がある。	・児童発達支援の対象にあたる児童が少ない。 ・送迎時の安全確保と事業所内で安全・安心に過ごせる環境の為に、職員の確保。	・児童発達支援の利用児のみの交流会を企画する。 ・2026年4月から職員（1名）増員予定。
2	地域との交流	受け入れてくれる場所があるかどうか 地域へ出た際、利用者を見失わないようにするためにスタッフ人数が必要。	外へ出る活動の際のスタッフ配置、また、見守るスタッフの意識の向上。
3	保護者同士の交流の機会や、家族会等の家族支援の開催が行われていない。	来年度は、保護者同志の交流の機会や、家族会等設けられるよう検討したい。	交流会や家族会等の内容の計画を行っていく。